



無限 MUGEN

2017年9月27日



SUPER FORMULA レースレポート

2017 SUPER FORMULA シリーズ第6戦

ガスリー、2位入賞。最終戦でチャンピオンを目指す

シリーズ名:2017 全日本スーパーフォーミュラ選手権 シリーズ第6戦

大会名:2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第6戦 スポーツランド SUGO

距離:3.704km×68周(251.872km)

予選:9月23日(土)雨のち曇り・観衆:8,700人(主催者発表)

決勝:9月24日(日)晴れ・観衆:14,000人(主催者発表)

2017年度全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第6戦が、宮城県スポーツランド SUGO で開催された。TEAM MUGEN は、#16 山本尚貴、#15 ピエール・ガスリーの2カー体制でこのレースへ参戦した。#15 ガスリーがこのコースを走るのはこの週末が初めてである。

● 9月23日(土)

■フリー走行

#15 ガスリー 9番手 1分15秒329

#16 山本 14番手 1分15秒683

#15 ガスリーは、前日金曜日に行われた専有走行でスポーツランド SUGO のコースを初走行、21 周を走り 1 分 07 秒 838 を記録して出走 19 台中 13 番手につけた。#16 山本は 23 周を走り 1 分 07 秒 863 を記録、出走 19 台中 14 番手につけた。

土曜日午前 9 時、フリー走行セッションが始まった。夜半からの雨が残り、路面はウェットコンディションとなった。競技委員会によってウェット宣言が出される中、競技車両は皆、レインタイヤを装着してコースインを開始した。

雨は弱まって止みかかっており、競技車両が走行を始めると徐々にラインが乾き始め、それとともにラップタイムも向上していった。しかしコース内には雨水が川になって横断する箇所があり、コースはなかなか乾ききらない。

セッション開始後 45 分経って、ようやくレインタイヤをドライタイヤに交換して走るチームが現れ始めた。#16 山本、#15 ガスリーはセッション残り 12 分となったところでピットへ戻り、ドライタイヤに交換してコースへ戻り、それぞれセッション中のベストタイムを記録して走行を終えた。

■公式予選

#16 山本 (Q1:16 位 1 分 06 秒 342 Q2:出走せず Q3:出走せず)

#15 ガスリー Q1:14 位 1 分 06 秒 074 Q2:6 位 1 分 05 秒 550 Q3:3 位 1 分 05 秒 080)

午後 1 時 15 分、公式予選セッションが始まった。雨は上がり、雲は立ちこめているものの路面はドライコンディションとなった。#15 ガスリー、#16 山本とも、朝のフリー走行でスクラブ(皮むき)をしたニュータイヤを装着してコースイン、最初のタイムアタックを行った。#15 ガスリーは計測 4 周を走り 1 分 07 秒 406、#16 山本は計測 6 周を走って 1 分 06 秒 898 を記録、ピットに戻った。

最初のタイムアタックを終えた 2 人は、前日のフリー走行とは異なる強いアンダーステア傾向を感じていた。夜から朝にかけて降った雨が路面のラバーを洗い流して路面コンディションを換えてしまった可能性があった。2 人はセッション残り 7 分を切ったところまでピットで待機、タイムアタックのためにコースインした。この時点で#16 山本は 16 番手、#15 ガスリーは 15 番手。

#15 ガスリーは 2 回目のタイムアタックで 1 分 06 秒 074 を記録、14 番手で最後尾ながら Q2 進出を果たした。#16 山本は 1 分 06 秒 342 の 16 番手に終わり、そのままスターティンググリッドが決定した。

チームは 2 人を苦しめたアンダーステアを解消するため、10 分間のインターバルに急遽セッティング変更を施し Q2 に備えた。午後 1 時 45 分、7 分間の Q2 セッションが始まった。#15 ガスリーは計測 3 周目に 1 分 5 秒 550 を記録、6 番手で Q3 に進出する 8 台に残った。

10 分間のインターバルを置いて午後 2 時 02 分、8 台で上位グリッドを争う 7 分間の Q3 セッションが始まった。#15 ガスリーは 3 周目、1 分 05 秒 080 を記録しトップに立った。その後このタイムを上回る選手が 2 人現れたため、#15 ガスリーのスターティンググリッドは 3 番手と決定した。#16 山本のスターティンググリッドは 16 番手となった。

● 9 月 24 日(日)

■フリー走行

#15 ガスリー 10 番手 1 分 08 秒 071

#16 山本 9 番手 1 分 08 秒 067

日曜朝午前 9 時から 30 分間のフリー走行が行われた。天候は薄い雲がかかりながら青空が見える晴れとなり、コースはドライコンディションである。赤旗によるセッション中断を挟み、チームと 2 人のドライバーは決勝に向け、燃料とガソリンの状態について最終チェックを行った。#15 ガスリーは 1 分 08 秒 071、#16 山本は 1 分 08 秒 067 を記録してそれぞれ 10 番手、9 番手でセッションを終えた。

■決勝

#15 ガスリー 2 位(68 周 1 時間 19 分 00 秒 682 ベストラップ 1 分 08 秒 304)

#16 山本 18 位(66 周 1 時間 16 分 59 秒 968 ベストラップ 1 分 08 秒 556)

朝はまだ残っていた雲が切れ、広がった青空の下で決勝レース前のウォームアップが行われた。ガスリーは 1 回ピットストップをして最終的な調整を行い、5 周を走って 1 分 9 秒 139 を記録、7 番手につけた。#16 山本はピットに入らずマシンの調子確かめながら 6 周を走り 1 分 9 秒 485 を記録 11 番手につけた。この時点で、#15 ガスリーはスタートで上位を守った場合そのまま引張ってタイヤ交換はせず給油のみ行い、#16 山本は無給油作戦でピットインせずに走りきる作戦が決まっていた。

午後 2 時 13 分、決勝レースのスタート合図が下った。その瞬間、#15 ガスリーの前に並んでいたポールポジションの選手がスタート加速に失敗したので#15 ガスリーはその内側に進路を変更してすり抜け、2 番手へ進出してレースを始めた。後方からスタートした#16 山本もひとつポジションを上げ 15 番手でレースを始めた。

#15 ガスリーは先頭を走る選手に引き離されまいと 2 秒弱の間隔で追いかける。しかし 20 周を前に間隔は開きだし、20 周目には 3 秒 239、30 周目に 6 秒 613 へと拡大した。一方#16 山本は後方で無給油作戦に沿った確実なラップタイムで周回を重ね 10 周目には 13 番手、11 周目には 12 番手、18 周目には 11 番手、19 周目には 10 番手と着実に順位を上げていった。

68 週のレースは折り返し点を過ぎ、いよいよ作戦が勝敗を分ける節目を迎える。#15 ガスリーは先頭の選手の出方を見ながら 2 番手を走っていたが 42 周目、先頭の選手が#15 ガスリーに対し約 6 秒の差を保ったままピットイン、コースへ復帰した。この結果、#15 ガスリーは見かけ上のトップに立った。チームはこの間に先頭の選手との実質的な感覚を縮めて追いつこうと#15 ガスリーにプッシュを指示した。

#15 ガスリーの後方にもピットインを遅らせて動向を見ている選手が続いていた。その差は 2 秒弱。その数台後方には無給油作戦で徐々に順位を上げてきた選手もいた。チームは、#15 ガスリーがピットインした際に順位を入れ替えるいわゆるアンダーカットをされるのではないかと、この無給油作戦の選手を警戒していた。

見かけ上のトップを走った#15 ガスリーは 57 周を走ってピットイン、チームは素早く給油を行って#15 ガスリーをコースへ送り返した。#15 ガスリーはトップの選手には追いつかなかったものの、アンダーカットは防ぎ、次の周に給油ピット作業をした 3 番手の選手にも順位を入れ替えられることなく 2 番手を守った。

レース終盤、トップを走る選手のペースが落ち、#15 ガスリーは追いついてその間隔を急激に縮めていった。60 周目には 3 秒 178 だった間隔は 65 周目には 1 秒を切った。しかし最後にトップの選手もペースアップ、結局#15 ガスリーは届かず 2 位のチェッカーフラッグを受けた。

後方で無給油作戦のまま走り続けた#16 山本は、好ラップタイムを記録しながら順位を上げ 57 周目には 9 番手、60 周目にはポイント圏内である 8 番手へ進出、さらに順位を上げようとした。ところがフィニッシュまで目前となったところでガス欠症状が出始めペースダウン、最終的には 67 周目の最終コーナー手間で走行不能となりマシンをコース脇に止めてレースを終えた。

#15 ガスリーは 3 戦連続で表彰台に上がり、ドライバーポイント 8 点を加算して通算 33 点とし、首位に 0.5 点差へ肉薄するポイントランキング 2 番手につけ、鈴鹿サーキットで開催されるシリーズ最終戦を迎えることになった。無得点の#16 山本は通算 10.5 点でランキング 9 番手を守った。また TEAM MUGEN も 8 点のチームポイントを獲得しトップと 4 点差のランキング 2 番手を守った。

■山本尚貴選手コメント

「チームメイトが今回も 2 位という結果を出しているのに、ぼくはポイントも取れず、とても悔しい思いをしています。金曜日にはユーズドタイヤを使って走ってそれなりの感触を得て、これなら行けると思っていたんですが、土曜日のフリー走行がウェット路面で始まったこともあって、ラバーが全部流れて、感触が変わってしまいました。公式予選ではアンダーステアが強いうえに、ところによってはオーバーステアが出るという状況で、なんとか対応しようとしたんですが Q2 に行けませんでした。スターティンググリッドが後ろの方になってしまったので決勝では無給油作戦でチャレンジすることにしました。レース中は良いタイムで走れたので結果こそ残せませんでした自分としては大きな手応えを感じました。残り 4 周くらいの段階でエンジンの力がなくなってきて、最終的に最終コーナーを上れなくなってしまい、クルマを止めました。決勝中のラップタイムには手応えはありましたが、レースは結果がすべて。最終戦の鈴鹿で結果を出せるよう頑張ります。」

■ピエール・ガスリー選手コメント

「今回もまたチームと共にすばらしいレースができました。今日のレースでは予選と同じくらい、スタートが重要だと思っていたので、それを心がけていました。そして 2 番手でレースを始められました。序盤 10 周くらいまでは問題なく走っていたのですが、その後はタイヤのグリップが不十分になって、苦しい状況になりました。中盤以降はグリップが回復しクルマもより良くなったので改めてプッシュし、徐々にトップとの差を縮めていけました。ピットストップ後は 2 秒以上のギャップが必要だとチームに言われ、オーバーテイクボタンを使いました。その結果、レース中にオーバーテイクボタンを使い切ってしまったので、勝利まであと一步のところだった最終ラップには使えず、『ここでオーバーテイクボタンを使えたら』と残念でした。でも、すごくいい戦いができたし、3 戦連続で表彰台に上がることができたのでとてもうれしいです。レース戦略はうまくいき、ピットストップ作業も速くて、チームは素晴らしい仕事をしてくれました。こんな素晴らしいクルマを用意してくれたチームとホンダにとっても感謝しています。トップと 0.5 ポイント差で臨む最終戦では、今年目標であるタイトル獲得を目指します。」

■手塚長孝監督コメント

「金曜日の走り初め、手持ちの中古タイヤの状態から 15,16 号車共に手応えを感じました。土曜日の朝、ドライタイヤの確認走行が出来なかった事はチームにとって負担要因になったと考えます。予選の Q1 では、2 人とも強いアンダーステアに苦しみ、山本選手は Q1 敗退、ガスリー選手は Q2 に進出したものの、ギリギリの結果での Q1 通過でした。Q2 以降のガスリー選手は、自身での走り方の工夫と、星チーフエンジニアのマジックセッティングのおかげで予選 3 位まで順位を伸ばしました。驚きと同時に、本当に嬉しかったです。決勝ではガスリー選手は巧みに 2 番手まで上がってくれたので、無給油作戦車両の動向を伺いながら、オーバー・アンダーカットされないようプッシュさせました。ピットアウト後は 2 位を死守しましたが、#19 に脅かされる場面もありましたね。ガスリー選手は中盤戦から上り調子で、チームにとって、とても良い仕事をしてくれ、強さと速さを伴った心に残るレースを見せてくれました。最終戦もこれまで同様、決めてくれるでしょう。」

山本選手は、後方グリッドからのスタートだったので他車とは違った作戦を選択しました。燃費走行をどこまで継続出来るのか、本人も積極的にチャレンジしてくれました。セッティングが良かっただけに、予選順位が悔やまれました。結果として、レースの終盤直前に燃料を使い果たしてしまいました。燃料を補給する選択肢もありましたが、ピットに入ったところで 14 位、ないし 15 位まで落ちてしまうので、山本選手の意向も斟酌し、無給油で走りきり、ポイントを得る戦略をチョイスしました。しかしながら、最終的にはコース上でレースを終えることとなりました。反省する次第です。最終戦は、全身全霊を傾けレースに挑み、表彰台を狙いたいです。チームの皆も良い仕事をしており、残すは最終戦で最高の結果を見せるのみです。応援してくださっているスポンサーの皆様、関係協力会社様、そして、ファンの皆様にも、最高に喜んで頂けるレースをお見せすべく努力致します。

TEAM MUGEN スーパーフォーミュラサイト

<http://www.mugen-power.com/motorsports/sf2017/>

無限フェイスブック

<https://www.facebook.com/mugen1973/>



